

もしかして認知症の方かな？・・・その対応

ご自分のお庭に見知らぬ方がたたずんでいたら、正直不安になってしまいます。でもその方が認知症でありそうなら、一声かけてその方を助けてあげてください。

認知症の方の特徴として

- ◎地域では見かけない高齢者が、うろうろ、きょろきょろ、そわそわと不自然に歩いている
- ◎散歩、ウォーキングとは思えない様子で歩いている
- ◎道路の敷石や、団地内のベンチに長時間座り込んでいる
- ◎季節や気温に合わない服装で歩いていたたり、駐車スペースにたたずんでいるなどが挙げられます。

認知症の症状として挙げられるいわゆる徘徊は、命の危険を伴います

道路に迷うなど、自分がどこにいるか分からずにいる認知症の方は、普段答えられることも答えられず、自分から道を尋ねたり、助けを求めることもできなくなっています。

声を掛けられないと、どこまでも歩き、その範囲は何キロも離れた市外まで行ってしまっても少なくありません。昼夜、雨雪でも関係なく構わずに歩いてしまいます。

認知症かなと思ったら、以下の対応をしてください。基本姿勢の3つのポイントは

- 1) 驚かせない
- 2) 急がせない
- 3) 自尊心を傷つけない

具体的な対応としては

- 1) まずは見守る : 認知症でなく、休憩をしていたり、場合によっては犯罪に巻き込まれる可能性もありますので、しばらく様子を見ることも必要です
- 2) 余裕をもって対応し、声をかけるときにはひとりで、後ろから声を掛けない : 目線を合わせゆっくりと穏やかな口調で、「こんにちは」など普通の挨拶からはじまり、「どちらにいらっしゃいますか?」「何かお困りですか?」などの簡潔な言葉で質問し、返事がなくても矢継ぎ早に尋ねず、答えをゆっくり待つ。
- 3) 声を掛けるときには優しい口調で、穏やかにはっきりとした話し方を
- 4) 相手の言葉に耳を傾けゆっくりと対応する
- 5) 厳しい顔、困った顔をせず、相手のペースに合わせる
- 6) 可能なら周囲の人に助けを求める
- 7) 最終的には早い 110 番通報をすることが大事です。その住所、対象者の服装などの特徴を伝えてください。

高齢者に限らず若年性の認知症もあります。ご自身やご家族が認知症になる可能性も

皆無ではありません。ただし犯罪に巻き込まれる可能性も考慮して、しばらく見守り相談できるかたに相談してから、上記のような対応を頂ければと思います。